

法政大学学術機関リポジトリ  
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

なし

---

(発行年 / Year)

1910

愛知縣早川半三郎外貳拾壹名請願貴族  
院議決民法及<sup>ヒ</sup>民法施行法中改正，一件  
御参考ノ爲メ同院意見書竝請願書寫及  
送付候也

明治三十五年三月十七日

司法大臣男爵清浦奎吾

法典調查會總裁伯爵桂太郎殿

意見書

民法及民法施行法中改正ノ件

愛知縣西加茂郡譽母町平民早川牛三郎外  
二十一名呈出

右、請願ハ民法ノ規定ニ依ルトキハ廢絶家ヲ  
再興スル者ハ唯其家名ノミヲ相續シ前戸主ノ  
有シタル財産ハ之ヲ承継スルコトヲ得ス是レ  
法律カ廢絶家ノ再興ヲ認メタル旨趣ヲ貴ノ能  
ハサルニシテ終ニハ廢絶家ヲ再興スル者  
ナキニ至ルヘシ因テ民法施行前廢絶家トナリ  
タルモノニシテ民法ノ規定ニ依リ未タ財産ノ  
處分ナキモノ及相續人曠闊ノ場合ニ於テ民法  
第千五十九條ノ規定ニ依リ未タ國庫ニ歸屬セ

法典調査會

サル相續財産ノ所有ハ親族會<sup>ニ</sup>於て決定シタ  
ル相續人ヲシテ相續財産ヲ併セテ承継スル  
コトヲ得セシメ從テ廢絶家再興ニ因リ相續財  
産ヲ承継シタル者ハ其家ヲ廢スレコトヲ得ス  
ト規定セラレタントノ旨趣ニシテ貴族院ハ顧  
意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議  
院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

明治三十五年三月四日

貴族院議長公爵近衛篤磨

内閣總理大臣伯爵桂太郎啟

詔令議員中西光三郎

廢絶家相續人財產取得ニ關シ民法及民  
法施行法修正ノ儀ニ付請願書

三河國西加茂郡舉母町  
早川半三郎外貳拾名

内

閣

廢絶家相續人財産取得ニ關シ民法及民法  
施行法修正ノ儀ニ付請願

修正ノ要旨

民法ノ規定ニ因リ相續人廢絶ノ場合ハ其  
財産ハ國庫ニ归属ス然レニ其手續施行前  
廢絶家ノ相續人ナレニ際セバ其最終戸主  
有セシ權利ヲ取得セシメントナルニ尸  
リ別紙正條中修正具備致候

右請願ノ要旨達カニ御採用被成下度議院法務

六十武條ニヨリ此段諱テ請願仕候也  
追フ別紙中朱書ヲ加フル者ハ修正ニ係レ

明治三十五年壹月貳拾九日

右請願人

西加茂郡舉母町七百五拾貳番戸

平民商

早川牛三郎

大正十二年九月二十五日

西加茂郡上郷村大字荒井五番戸

平民農

魚澄農夫

大正三年四月十五日

外貳拾名

貴族院議長公爵近衛駕磨殿

法典調查會

民法施行法

明治參拾壹年六月十五日

法律第拾壹號

第九拾貳條相續人贖欵、場合、關係、民法、規定、其施行前、開始ニタル、相續ニ付テハ其施行ノ日ヨリ之ヲ適用ス。

民法施行前廢絶家トナリタル者ニシテ民法ノ規定ニ因リ未タ財産ノ處分ナキ者、親族會ニ於テ相續入シ撰定シタルトキハ最終戸主ノ有セシ裁判ヲ取得スヘコトヲ得

民法施行法修正ノ理由

廢絶家再興者、於テ財産、相續出来ガルニ、於  
テハ將來廢絶家再興者十キニ至ル、恐アリ案  
スルニ、民法、規定、因リ、國庫、飯属ニサル者  
、相續人ハ財産ト失ニ相續スルハ相續人當然  
ノコトト信ス然テサレハ折角相續スルモ祖先  
ヲ恩フ輕重夫レ幾何ソ改ニ相續人ハ承名財産  
失ニ前戸主ノ有セシ權利ヲ取得セシメント云  
フニアリ

民法

明治參拾壹年六月拾五日法律第九號

第四編

親族

第參章

戶主及家族

第七百六十條 新家ヲ立テタルモノハ其家

ヲ廢スルコトヲ得

家督相續ニ因リテ戸主ト爲リタル者及親族會  
ノ擬是ニ因リテ戸主ト爲リ其財産ヲ取得シタ  
ル廢絶家再興者ハ其家ヲ廢スルコトヲ得ス但  
本家ノ相續又ハ再興其他正當ノ事由ニ因リ裁  
判所ノ許可ヲ得タルトキハ此限りニ在ラス

第五回 相續

法興調查會

第五章

相續人ノ廢絶

第十五拾九條 前條ノ期間内ニ相續人タル権利  
ヲ主張スル者ナキトキハ相續人財産ハ國庫ニ  
破滅ス此場合ニ於テハ第十五拾六條第二項ノ  
規定ヲ準用ス但本條ノ手續ヲ爲ササル者親族  
會ニ於テ相續人ヲ擇定シタルトキハ廢絶家最  
終戸主ノ有セシ權利ヲ取得人相續債權者及受  
遺者ハ國庫ニ對シテ其權利ヲ行フコトヲ得ス

民法修正ノ理由

廢絶家ノ相續人ハ家督相續人ト同様ナサンント  
スル者ニシテ其財産ハ民法ニ於テハ國庫ニ取  
属スル者ナリ然ルニ財産アリテ相續人アルハ  
人情ノ然ラシムル處ナレハ家名ノミノ相續ハ  
拾中ノハ九莫撰ニ當ル者ナキハ明瞭ナリ将来  
承名ヲ永續セシメントスレバ是非失財産ト失  
ニ相續セシメサルノ已カラ得サル者ナリ